

井口和起学長の模擬授業

文化

津波や洪水で水に浸かった文書の救済から「ブルーシールド」の活動まで～文化財・文化資源を戦争や大規模災害から守る仕事を考える～

講師：井口 和起

地震・津波・洪水などで毎年のように大きな被害が出ています。災害救助の活動はもちろん人命救助と生活の復旧が最優先されます。

それに少し遅れながら、被災した役所の文書などを救い、もう一度使えるようにする活動も始まります。市や町の行政機関の文書は、復旧活動にも欠かせない基礎的な文書ですから。また、住民の一人一人の大切な記録や写真などを救い出すことも重要です。

こんな仕事はどのように行われているのか、東日本大震災の時の経験を中心に最近の事例などを紹介します。

水害の多い北近畿の地域でも他人事ではないと思います。みなさんも参加してみませんか。

さらに大きくは世界の文化遺産を戦争や大規模災害から守ろうというブルーシールド(青い盾)の国際委員会の活動もあります。戦争の中でも敵味方を問わず人命を救おうと始まったのが赤十字の運動ですが、その文化財版がブルーシールドの運動です。

文化財・文化資源を保存し後世に伝えていくことの大切さを一緒に考えてみようではありませんか。

■ 受講人数の目安：50～100人

■ 所要時間の目安：50～90分

■ 高校でご準備いただきたいもの：パソコンとプロジェクターとスクリーン(パワーポイントができれば良い)

歴史

歴史を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか？

講師：井口 和起

みなさんは中学や高校で日本史や世界史の授業を受けていて、ひょっとして歴史は暗記もので、ちっとも面白くないと思っていたことはありませんか。本当はそうではないと私は考えています。歴史を学ぶ最も大きな意義は、私たちが生きている今という時代が決して不変ではなく、必ず変わるものだということを確信できることにあると思います。

変わるといっても、ある日突然変わってしまったという変わり方もあれば、一日一日では何の変化も感じてはなかったのだが、ふと5年前、10年前と比べると大きく変わってしまっていることにびっくりするような変化もあります。もちろん、どうみてもあまり変わっていないなあというような変化の遅いものもあります。

こんなことを具体的に考えるために、1920年代から2000年代までの80年間に日本社会はどう変わったかを一緒に考えてみませんか。というのも、みなさんの生れたのは2000年前後でしょうから、それから80年余り2080年代まで、つまりみなさんがこれから生きていく時代の変化を見とおすための訓練になればということです。

◆ この他、日本近現代史の学習や歴史教科書のことに関連することのお手伝いならできます。

■ 受講人数の目安：50人前後

■ 所要時間の目安：50～90分

■ 高校でご準備いただきたいもの：パソコンとプロジェクターとスクリーン(パワーポイントができれば良い)